

高浜地区振興会 広報

はとみね 九鳥の峯

No.62
2022
1.1

令和4年1月1日



尚表紙の写真は、一ノ鳥居と小祠(神殿)を組み合わせたものです。

主な内容

- 高浜ものがたりウォーク…2P
- 健康づくり学習会……………2P
- 白鶴浜イルミネーション…2P
- 連載……………3P
- 各神社の秋まつり……………3P
- 陶芸まつり……………4P
- まちごもり……………4P
- うちの家族……………4P
- 編集後記……………4P

権現様まつり(西平区)

三王権現社は、幾右衛門が38才の年、宝暦4年(1754)年一族のまも護り神として高浜西平の地に建立、年月の移りに小祠(神殿)が風化、破損のため昭和50年に修復再建されました。

旧暦9月23日を毎年三王権現の祭り日と定め参拝しております、権現様は神仏混淆として地域の人々の尊崇が寄せられています。

現在の管理等は大脇和年氏によって行われています。
(郷土史家・松本教夫調書より部分引用)

高浜ものがたりウォーク



十三仏周辺



商工会前スタート

11月14日、高浜ものがたりウォークを実施しました。白鶴浜駐車場をスタートし、ゴールではお楽しみ抽選会もありました。

健康づくり学習会

スポーツ振興課・鶴田講師



10月13日、天草市健康づくり推進員の学習会が天草支所で開催されました。
今回は、健康寿命を伸ばすために必要な「運動」について学びました。
誰もが年を重ねていく中で、フレイル（心身ともに衰えた状態）になることが、現在、社会問題となっています。そこで、いつまでも笑顔で自立した生活が送れるように、「自分のできるしこ」で体を動かしていきましょう。筋肉はいくつになつてもつけることができます。「やるのとやらないのでは雲泥の差ですよ」。

白鶴浜イルミネーション

11月27日、白鶴浜では海道君も登場して子供達と一緒に点灯式が行われました。今年は昨年より電球も増して、きれいなイルミネーションで子供達より歓声が上がりました。



キャプテン海道くんと子ども達

江戸時代の孝行息子万七(四)

京都府立大学 文学部歴史学科 東 昇

母への礼儀と兄への心遣い

このような貧しい身なので礼義を知らないのではと思ひますが、

万七は常に行儀よく、決して母の上座に座らず、朝夕の食事も母より先に食べず、いつも母が箸をどうのを待つて自分も食べていました。冬寒いと思う夜には自分が来ている服を脱いで母の寝ている上に着せ、自分は火をたくかムシロを上に掛けて寒さをしのぎました。また、とても寒い時期には、自分の足が冷えるのを気にして、自分の懷に母の足を入れ温めながら寝ることもよくあると知り、人々はその手厚い孝行の様子を見るのでした。兄の茂右衛門が母を見舞に来ると、いつも万七は酒を買って進めます。自分も母も酒は呑みません。自分が兄が好きなのを知つていて一度も欠かしたことはありません。自分の日雇い銭の残りが少しだもあれば、兄に酒を呑んでくれと送ることもあります。兄は人に仕えて奉公しているので、呑みたくても呑めないと気遣い送つてのことでした。

賀神社の秋まつりが行われました。峰平区の人たちが集まり神様への感謝をささげました。

各神社の秋まつり



峰平区の人たち



志賀さま



恵比須神社・宮ノ前



天満宮・白木



元向地蔵さま



元向稻荷さま(願成就)
がんじょうじ

温かい善意のご寄付
ありがとうございます

寄付金は高浜地区振興会の活動
に有効に活用させていただきます。

ふるさと応援寄付金

米田 友和様（千葉県）

松原 寿幸様（熊本市）
中村スミ子様（福岡県）

小松 正徳様（愛知県）
木本 進弥様（大阪府）

上田 幸穂様（千葉県）
川原 明様（熊本市）

高浜地区

(令和3年11月30日現在)

人口	997人
男	463人
女	534人
世帯数	571戸

高齢化率(65歳以上)
574人(57.6%)



2022寅年



高浜焼寿芳窯

陶芸まつり

まちごもり



中向八坂さま



元向稻荷さま

12月3日、出雲の国から神さまが帰つてくる待ちごもりが行われました。夕方には雷雨も吹き荒れましたが、雨もやみ、氏子総代、役員の方が集い神さまを待ち受けました。

11月19日から11月23日まで高浜焼寿芳窯で「秋の窯出し」が行われました。寅の置物や新作の展示販売もありました。

新年明けましてお目出とうございます。昨年を振り返りますと全国的にコロナ、コロナで大変な一年で過ぎてしましました。今年は壬寅年。意味は寅はミミズに通じ、春の草木が生ずるとの事。皆さまが新しい成長の礎となる様お祈りします。

編
集
後
記



「ろくまる」豆柴の雄で、1月20日で1歳になります。
食欲旺盛で食べる事が大好きです。
(飼い主も) (元向川原豊文さん)

うちの家族